

藏開

タシ、瓜ヲキルヲ七草瓜ト云、今日專ラ瓜ノ斬初ヲナス也、京坂ニハ此行ヲキカズ、
〔故實拾要〕正月 御藏開 是十日ヨリ十五日迄ノ内、吉日ヲ撰デ此義アリ、
〔禁中年中行事〕正月 十一日 御藏開 或十二日、十三日、御德日之外、十三日迄之内、
〔増補江戸年中行事〕正月 十一日 町中藏びらき祝ふ

〔東都歲事記〕正月 十一日 商家貨買帳（イフツケ）を綴ぢ、藏びらきを祝ふ、鏡餅（カガヒモチ）をひらき、雜（ミヤ）煮（ニ）となし祝ふ、

〔年中行事故實考〕正月 藏開 正月藏の神に鏡餅を備へ、戸を開くことなし、十一日に至りて、始て戸を開き餅を祝ふ、藏の神は稻倉魂神を祀る、祭祀雜彙曰、大神宮御倉には、大宜都比賣命を崇め、御稻倉には屋船命を祀る、是を以て、其分あることを知るべし、

鏡開

〔倭訓栞〕（中編四）かゞみびらき 正月の糕鏡を武家は甲冑にそなへ、是を廿日に開く、刃柄（ハヅレ）を祝ふ義也、承應壬辰年より、十一日に改めらるゝとぞ、婦人鏡臺に供へたるをも廿日を用う、初顔祝ふの義也といへり、

〔雍州府志〕（土産）缺餅 凡倭俗新年所用之餅有數品、（中略）士人供甲冑、是謂具足餅、倭俗身甲一具謂具足、凡甲冑有六具、悉具足之謂也、其所供之鏡餅、以刃截食之、是稱開鏡、又謂祝鏡、至甲冑忌、斬殺之詞、故以手破餅、缺一片食之、故是謂缺餅、於今一切稱缺餅、

〔湯土問答〕問、物ノ具ニモチヲ供スル事、イヅレノ時ヨリカ始候ラン、戰國ノ時ニ筆記セシモノニハ、曾テ其事見エアタラズ候ガ、モシヤ太平ノ時ニ及テ始リ候歟、答、鎧ノ餅ノ古クハ聞エザルコト、サレドモ御當家太平ノ代ヨリ先、織田豐臣ノ世ニ始リシコトニヤ、羅山文集ニ鎧餅其起ヲ未知トアリ、考ルニ秀吉公薨ズル慶長三年、羅山十六歳ナリ、其頃以後ニ始リシコトナラシニハ、其ノ起ヲ現在見聞アルベキコトナルニ、起リヲ知ラズト書シタレバ、猶其ヨリ先ニ起リシナルベシ、一條兼冬公ノ天文十三年ニ書給ヒシ世諺問答ニ、節分ニセウノモチヒトテクヒ侍ル、此